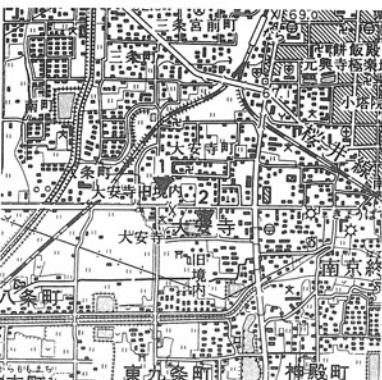


## 奈良・大安寺旧境内



(奈良・桜井)

- 1 所在地 奈良市大安寺一丁目～四丁目
- 2 調査期間 第五七次調査 一九九三年(平5)五月～七月  
第六四次調査 一九九四年二月～三月
- 3 発掘機関 奈良市教育委員会
- 4 調査担当者 三好美穂
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

奈良時代の大安寺は東西両塔を南大門の南に配した伽藍配置をもつ大寺院で、平城京の左京

六条四坊と七条四坊にまたがる一五町の寺域を占めていた。奈良市教育委員会では一九八〇年からこれまでに大安寺旧境内で計六四次の発掘調査を実施している。

一九九三年度は八件の発掘調査を実施した。このうち、

大衆院推定地の第五七次調査区と苑院推定地の第六四次調査区で木簡が出土した。

### 一 第五七次調査区

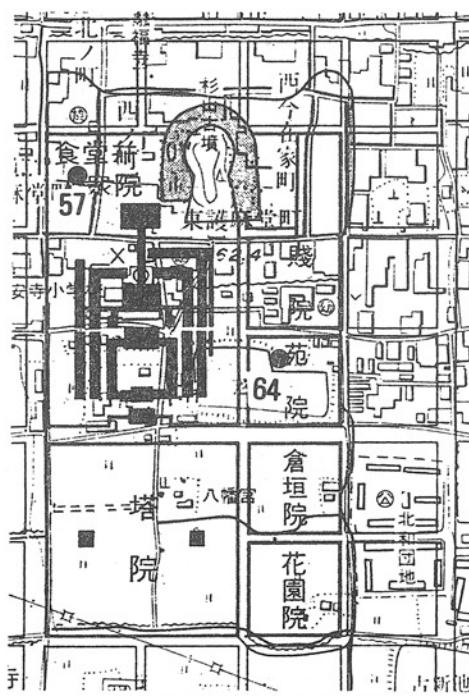
大衆院推定地内ではこれまでに一一次の発掘調査を実施しているが、奈良時代の建物はわずか二棟が検出されているだけである。今回の調査では、奈良時代の掘立柱建物・井戸・土坑・素掘りの溝など多数の遺構を検出した。このことから寺域の北辺は室町時代から宅地化したことかわかった。

木簡が出土したのは、奈良時代の井戸SE〇二である。井戸掘形は平面形が方形で、一边が二・二mから一・四m、検出面からの深さは約四・五mである。井戸枠は方形横板組隅柱留で、内法が〇・九mあり、横板は九段分が残っていた。

井戸枠内からは木簡のほか、奈良時代の後半から末にかけての特徴(平城宮土器V～VI)をもつ土師器・須恵器・墨書き土器・軒瓦・横櫛・人形・独楽・鎌・工具柄・籠・曲物・棒状木製品・鉄釘・銅滓・ふいごの羽口・漆紗冠が出土した。墨書き土器は六点あり、25頁図版の1は「大安寺」、2は「大寺」、3は「大安寺左右酒」と読め、このほか「寺」「右家」と読めるものがある。

### 二 第六四次調査区

苑院推定地では、これまでに七次の発掘調査を行ない、奈良時代



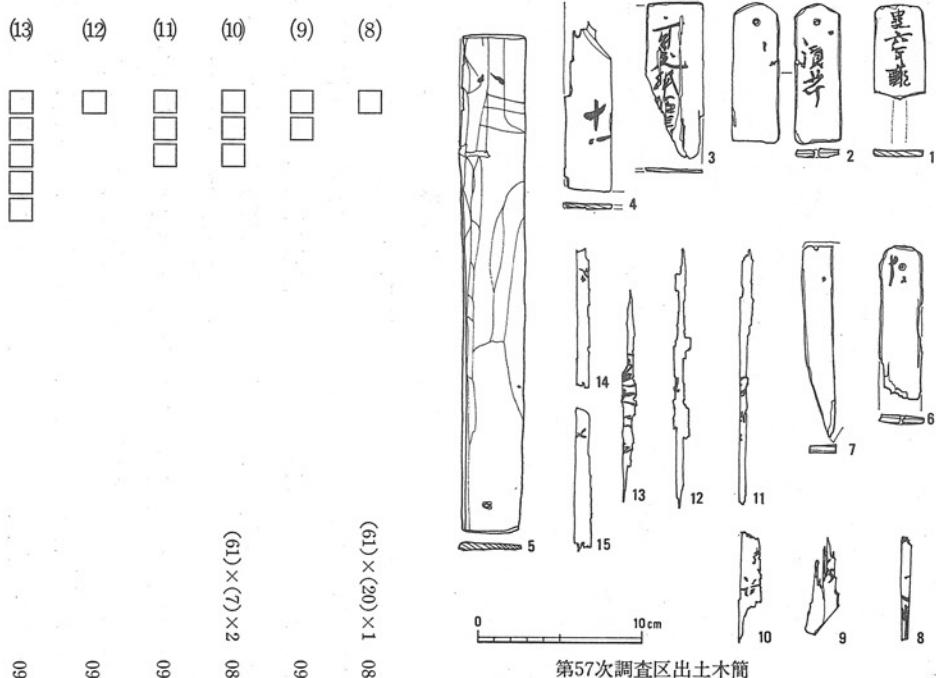
### 大安寺伽藍配置図と調査地点

の掘立柱建物や塀が検出され、奈良三彩陶器、土師器、須恵器などが出でていている。今回の調査では、奈良時代の掘立柱建物一棟、井戸一基、素掘りの溝一条、土坑及び平安時代の掘立柱建物三棟、掘立柱塀一條、土坑を検出した。苑院推定地内で平安時代の遺構を検出したのはこれが初めてである。

一 第五七次調查區

- |     |                |                                  |
|-----|----------------|----------------------------------|
| (1) | 「龜六年難<br>(題籤軸) | $(56) \times 31 \times 5$ 061    |
| (2) | •「○瀆芹」         |                                  |
| (3) | •「○□」          |                                  |
| (4) | 「○可充紙□□        |                                  |
| (5) | 十「一」           |                                  |
| (6) | 「八○」           |                                  |
| (7) | 「○□」           |                                  |
|     |                | $85 \times 39 \times 5$ 011      |
|     |                | $(96) \times 34 \times 2$ 019    |
|     |                | $(105) \times (29) \times 3$ 081 |
|     |                | $310 \times 38 \times 5$ 011     |
|     |                | $(95) \times 26 \times 6$ 019    |
|     |                | $117 \times (18) \times 5$ 051   |

もつ(平城宮土器Ⅲ～Ⅳ)土師器、須恵器を始め、墨書き土器や軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、熨斗瓦、製塙土器、土馬、曲物、棒状木製品と多量の木屑が出土した。墨書き土器は一四点あり、図版の4は「東院」、5は「光」と読め、ほかに「大」「家」「維」「高」と読めるものがある。4は早良親王が神護景雲三年(七六九)から天応元年(七八一)まで大安寺に住まいした場所として知られる東院(「大安寺碑文」「大安寺崇道天皇御院八嶋両処記文」など)との関連が注目される。



第57次調査区出土木筒

SE○1からは木筒一五点が出土した。(1)は題籤軸で、軸部は欠損する。「亀六年」は宝亀六年(七七五)であろう。「難」に続く文字は裏面に記載されると考えられるが、削られているためわからない。(2)は物品付札で上方に穿孔がある。片面に「漬芹」、もう一面は削られ墨書がわずかに残るだけである。芹の漬物の入った容器に紐で留められていたものであろう。(3)は何らかの用途に充当する紙の数量を記したと思われる木筒で上方に穿孔があり、下半は欠損している。(4)～(6)は他にも文字があつた可能性があるが、表面が削られていて、現状では他に墨痕はない。他に断片三点と削屑が六点あるが、墨痕が残るだけで文字として判読できない。

(61)×(29)×1 081

091

## 二 第六四次調査区

(16) • 「七日□□□□□」  
〔受カ〕



(61)×(7)×2 081

091

• 「□□□□□」  
〔道女カ〕



(306)×(17)×4 081

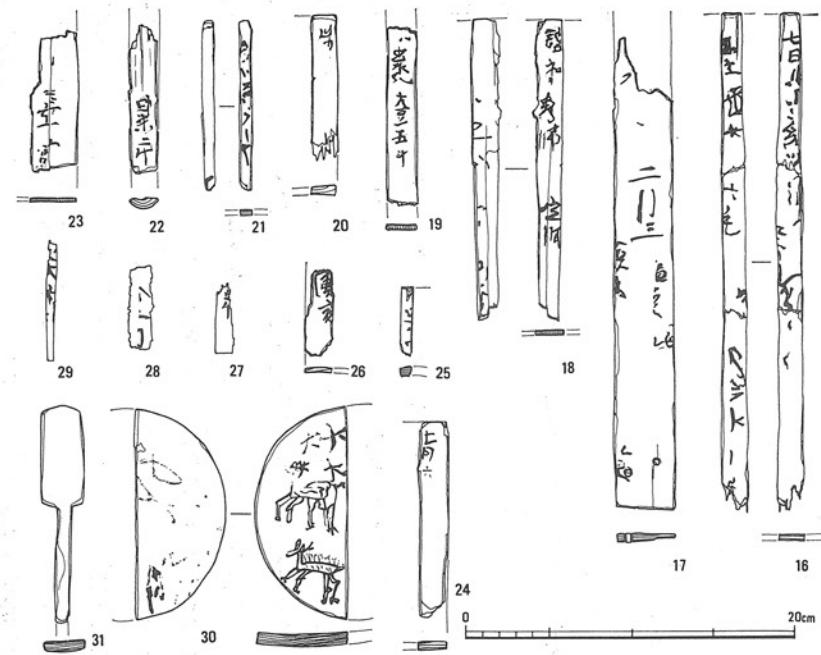
091

(15) □  
(14) □  
091

091  
091

1993年出土の木簡

(27)	(26)	(25)	(24)	(23)	(22)	(21)	(20)	(19)	(18)	□	□
五斗	五斗	五斗	白米一斗	白米一斗	白米一斗	□	□	出水鄉 大豆五斗	走□	□	□
			〔山カ〕	〔山カ〕	〔山カ〕			〔田カ〕	・「□□□□」	・「□□□□」	・「□□□□」
									11月11〔田カ〕	11月11〔田カ〕	11月11〔田カ〕
									(290)×35×5 019	(290)×35×5 019	(290)×35×5 019



第64次調査区出土木簡

(28)

(29)

160

(30) 大□大□  
大□〔大カ〕  
(鹿の絵)

(記号か) □

(140) × (50) × 8 061

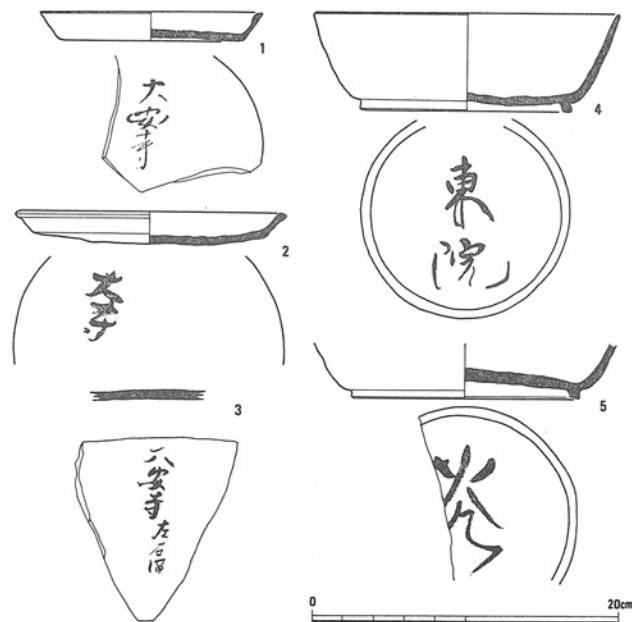
井戸枠内から三五点の木簡が出土した。その大部分は削屑である。  
(16)は文書木簡と考えられる。表裏に墨書きが残るが、表面が削られ読み  
めない。(17)は短冊状の薄板の片面に墨書きが残る。上半を欠損するが、

切れていたことや木釘があることから、板を三枚以上横に並べ棟を渡し、木釘で留め組板状にしたものと見られる。木組の形態から見て、木箱の蓋の可能性がある。<sup>(18)</sup>は表裏に墨書きしたものと思われるが、表面が薄く削られており、こしげ続

めない。「定□」は人名か。(19)は両端を欠損する。『和名類聚抄』によればイズミ郷は三カ所知られ、うち大安寺に関連するイズミ郷には山城国相楽郡水泉郷がある。「大安寺伽藍縁起并流記資財帳」の「庄」の項に「泉木屋并蘭地二町」の記載があり、大安寺の木屋と

9 関係文献  
奈良市教育委員会『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成五年度』(一九九四年)

8 篠原豊一 三好美穂



第57・64次調査区出土墨書き土器

卷頭言

木 簡 研 究 第九号

田中 稔

一九八六年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 興福寺旧境内 藤原京跡 和田廃寺  
 橘寺 曲川遺跡 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 長  
 岡京跡(4) 平安京右京三条二坊八町 平安京右京五条一坊三  
 町 平安京右京五条一坊六町 平安京右京八条二坊二町 平  
 安京右京八条二坊十二町 伏見城跡 大坂城跡 安堂遺跡  
 津田トップナ遺跡 萱振A遺跡 称布ヶ森遺跡 但馬国府推  
 定地 初田館跡 福田片岡遺跡 清洲城下町遺跡(1) 清洲城  
 下町遺跡(2) 居倉遺跡 土橋遺跡 駿府城三の丸跡 東京大  
 学構内遺跡 浜野川遺跡 神照寺坊遺跡 净琳寺遺跡 光相  
 寺遺跡 吉地薬師堂遺跡 胆沢城跡 根城跡 生石2遺跡  
 新青渡遺跡 扯田柵跡 田名遺跡 曾万布遺跡 辻遺跡 富  
 田川河床遺跡 草戸千軒町遺跡 周防國府跡 中島田遺跡  
 大宰府跡 井相田C遺跡 吉野ヶ里遺跡

一九七七年以前出土の木簡（九）  
 平城宮跡（第三二次補足調査）

國語の表記史と森ノ内遺跡木簡  
 敦煌凌胡隣址出土冊書の復原  
 漆紙文書集成

正倉院木簡の用途——原秀三郎氏の所説に接して——  
 岸俊男会長の思い出  
 彙報

頒価 三八〇〇円 一五〇〇円

稻岡耕二  
 大庭脩  
 佐藤宗諄  
 東野治之  
 平野邦雄